

---

# シアワセ

凜白

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シアワセ

### 【コード】

N2259Q

### 【作者名】

凜白

### 【あらすじ】

凜と健祐のセツナイ恋、、、、

かなり長編になる可能性が（）（）（）（）（）（）（）



【なにが？】

【、、、アイツが、、、】

【アイツ？って、、、健佑のこと？】

、、、このメールから、全て始まった、、、

【ああ。、、、ごめん。】

【だから、なんで謝るの？】

【アイツの事、、、止められなかった、、、】

【、、、アイツなんか悪いことしたの？】

【いや、、、違うんだ、、、】

【ナニ？はっきりと言ってくれない？】

【泣かない？】

【は？、、、うん。】

【、、、アイツが、、、『もう、飽きた、別れたい。』、、、って。  
】

【え、、、本当に？】

アイツと、、、別れる？

どういじこと？

意味が分かんない。

嫌だ。

怖い。

辞めて。

嘘でしょ？

嘘って言うて。

【、、、あぁ。ごめん。】

なんで、、、

なんで、、、

【、、、湊が謝ることじゃないよ。謝らないで。】

【でも。凜がアイツのこと大好きなこと知ってたから、止めてやりたかった、、、けど、、、俺には、止められなかった、、、考え直すように言ったんだけど、、、』もう、俺は、決めた。』しか、言わなくて、、、ごめん。】

、、、湊が謝ることなんかじゃない。

謝らなくて良い。

湊は、止めようとしてくれた、、、  
その気持ちだけで十分だよ、、、ありがとう、、、湊。

湊

、、俺は、山口 湊 (やまぐち こう)

たった今、友達を裏切ったと同時に友達に隠し事をした。俺が裏切った友達は、、

瀬崎 健佑

(せざき けんすけ)

、、コイツが

凜と「別れたい」

って言っていた凜の彼氏だ。

俺は、コイツに

「この事誰にも言うな。」

って口止めされていた、、けど、俺は、言ってしまった。

伝えるんだったら、早い方が良いに決まってる、早い方が傷が浅くてすむ。

そうやって、ずっと思ってた、、けど。

そんな、甘い考えじゃ駄目だったんだ。

凜にメールで言ってしまったことを、今更後悔する。  
後悔してからじゃ遅いんだ、、

凜、、ごめん。

もう一人、俺が隠し事をした友達。

それは、

華椰萌 凜

(かなめ りん)

瀬崎 健佑の彼女だ。アイツが隣に居る時は、アイツの隣にべった

りくつついて離れない。

アイツが隣に居なくても、アイツの話ばかりして、、、

アイツも前は、凜の話しかしなかった。

凜の話をするたびに俺らで

「はいはいもう愛しの彼女さんの話は聞きあきましたよ〜」  
なんて言っただけで冷やかしてた。

そのたんびに、

「別に良いだろ。

好きなんだし。

悔しかったら俺みたいに彼女作ってラブラブしろよ。

まあ〜お前らには無理だな。」

なんて言ってた。

楽しそうだった。

これからもずっとこんな、バカップルが続くのか？  
って思うと笑いが止まらなかった。

そんな、凜に俺は隠し事をした。

けど、隠し事をせざるおえなかったんだ、、、あんなこと凜に言っ  
たら、、、凜が壊れる。

凜を壊したくない。

駄目だ。

もっと傷つけてしまう。

まさか、アイツがあんなこと言うとは、、思わなかった。

）．．．．．

「はあ！？別れたい？なんでだよ！」

「、、、、もう、飽きたから」

飽きた？

そんな馬鹿な話ありかよ？

「意味わかんねえ。

、、、、考え直せって！」

凜が可哀想じゃねえかよ。

「もう、俺、決めたから。てか。なんでそんなに必死なんだよ？」

「凜が可哀想じゃねえかよ！」

「だったらお前が付き合えば？」

、、、はあ？

なんでそうなんだよ。

アイツは、、、凜は、、、

お前の事が好きなんだよ。

お前の事だけが好きなんだよ。

お前の事しか見てないんだよ。

凜は、、、。

「お前馬鹿だよ、、、ぜってえー！」

「はあ？」

「、、、そろそろやめてくれん？」

「俺ん家で喧嘩すんの。」

「「あ、、、スマン。」」

そうだった、ここは伊藤 涼斗 (いとつ りょうと)  
の家だった、

「伊藤ごめんな。

俺帰るは。

じゃ。」

帰るのかよ。

逃げるのかよ。

最低な奴だ。

～～～

～、～、つて事凛に言えるはずがないんだよ。

言えたら、ある意味狂ってるよな。

俺は、凛を傷つきたいわけじゃないんだ。

俺は、凛の事をなるべく楽しくしてやりたいんだよ、

俺は、

俺は、、、凜の事が好きだから。

だからといって、あいつらを別れさせようなんて思わない。そんなこと思えない。あんなに楽しそうで、、、幸せそうで、、、あんなに笑ってる 凜の事壊すことなんてできない。

健佑

「、、、もう、飽きたから。」

、、、こんな嘘に決まっている。

俺は、凜と別れたいなんて思っていない。

それどころか、別れたいなんて思った事が、一度もない。

あんなことを言ったのには、しっかり理由がある。別に、凜の気持ちを確かめるためにこんなことをした訳ではない。確かめるんだったら、もっとやり方がある。あんなふうに確かめようとする、凜がなく。

凜が傷つく。

可哀想だ、

俺は、例え親友だろうが凜の事を傷つける奴は許さない。

しかし、今、俺は凜を傷つけようとしてる。

俺がもっと強ければこんなことには、ならなかったはずだ。  
俺がもっともっと強ければ、

）・）・）・）・）・）・）・）

“ ちょっと話があるの、昼休みに図書室に来てねっ

凜

”

凜からの手紙だ。

、、、何故手紙だ？

いつもなら湊とかに、伝言を頼んだりするのにな、

まあ良いや。

昼休みに、図書室な。  
わかった。

昼休み

、、、遅いな。

もう、5分も経っている。

珍しいな、、、時間には、厳しい凜なのにな、、、。

「あゝ待った力ナ？まさか、本当に来るとわねえ」  
ふふふ

「は？」

思わずまぬけな声を出してしまった。

それも、そのはず。

そこいたのは凜じゃなかった。

、、、そこいたのは、仲都  
だった。

なかつ  
毅 たけ

コイツは3年。

俺とも凜とも仲が良い。

凜に至っては、幼稚園が一緒なのだ。

そんな、仲都がどうしてここに？

「少しは、怪しむとは思ってたんだけどなあ」

「は？」

「ふふふ。お馬鹿ちゃんだねえ」。

僕知って手紙にしたんだけどなあ、、、」

、、、  
“怪しむ”。

、、、  
“僕知ってて”。

は？

ってことは、、、

中都是、凜が手紙なんか、かくはずがないことを知っていた？  
手紙を書いたのは凜ではなく仲都？

「は？」

なんだよ。

何でお前がここにいんの？」

「凜ちゃんに関することだよ」

いきなり真面目な顔になった仲都がいう。

「まあ、こんなところじゃなんだし、僕についてきてよ、ニッコ」

、、、なんだコイツ。

何を企んでる？

「何にも企んでなんかないよ。ただ、真実を伝えるだけだよ」

ついたのは、学校の校舎の裏。

草がのびぼうだいに生えている。

確かに、ここなら、誰からも見えなくて、誰も来ない。

「なんだよ。」

「そんなに怖い顔しないでよお、、、怖いじゃん？」

「だから、、、なんだよ！」

凜だ、、、と嘘をついてまで俺を呼び出した訳。凜に関する事。

人に聞かれてはまずい話。

早く聞きたい。  
そんな苛立ちが言葉に出てしまう。

「俺。凜ちゃんのことを好きなんだよねえ。君からなんとしてでも奪うから。」

「っ!?!」

こいつ、、、本気かもしれない。

いつもなら一人称は、、、“僕”。  
だが、今までの付き合いでわかってること、、、  
それは、本気の際は一人称が“俺”になる。本気で怒った時。  
本気で何かをしているとき。

「俺、本気だから。よろしくね？」

、、、覚悟しておいたほうが良いよ。

よろしくニッコッ

、、、覚悟、、、

「渡さねえよ。」

お前なんかに凜渡さねえよ。」

「ん〜。じゃあ。」

俺と勝負ね

んじゃ。バイバイ」

、、、、なんのつもりだよ、、、、あいつ。

あいつのことだ、、、、

どんな手を使ってでも、奪うはずだ。

けど、そんな柔い関係なんかじゃない。

俺と凜の関係は。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2259q/>

---

シアワセ

2011年1月19日02時59分発行